

令和5年度 学校評価（学校評議員）学校関係者評価

北海道札幌西高等学校 定時制課程

1 主体性や社会性を育む教育活動の充実

重点事項	内 容	具体的な取組
系統的なライフスキル教育の推進	日常で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力であるライフスキルを身に付ける教育を系統的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における協働して取り組む場面の設定 ・体験活動の充実 等
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> ・各授業等において、必要に応じて生徒が課題を解決するために協働して取り組む場面を意図的に設定した。 ・各教科・科目等の特質に応じた体験活動の場を必要に応じて設定した。 ・総合的な探究の時間の1単位増単分において、特別支援担当教諭により年間通じて「コミュニケーションに関する分野と学習能力に関する分野」を各種トレーニングを取り入れながら今年度も実施してきた。 ・HR指導や個別面談等を通じて、生徒が社会的な自立に向けた基盤を整えられるよう、必要に応じて関係機関を紹介するなどの個に応じた指導を行うことができた。 		
バ イ 意 見 ・ イ 野 望 等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を拝見して感動した。 ・引き続き実践的なトレーニングが行われることが望ましいと考えます。 ・各授業等において、必要に応じて生徒の課題を解決するための取組は大切である。「コミュニケーションスキル」の指導を充実していくことが肝要と思われる。 	
重点事項	内 容	具体的な取組
生徒の多様な分 かり方を活かす授 業づくり	多様な学習歴のある生徒一人ひとりが理解しやすい指導方法や指導形態を研究・工夫して、生徒のできる、わかる喜びを実感できる授業づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの学習活動の基盤となる生徒同士の関係づくり ・「単元テスト」は、実施時期が集中しすぎないように、日程を調整。
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動等を通して、生徒同士の関係づくりを意識した指導を行った。 ・「単元テスト」の日程調整については、教科担任が各教室に実施時期を掲示することにより、科目同士の日程が重複しないよう工夫した。 		
バ イ 意 見 ・ イ 野 望 等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別性に応じた細やかな配慮がなされていることに頭が下がる。 ・生徒のできる・分かる喜びを実感できる授業づくりは大切です。 	

2 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着

重点事項	内 容	具体的な取組
個に応じた指導の充実	授業の中で一人一人の生徒の実態に応じ個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、TT指導など指導方法や指導体制を工夫・改善し、生徒の個に応じた学習ニーズに適応した指導を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 教材作成及び授業以外での個別指導も含め、各教科担当者が工夫しながら進める方向性の継続。 外部との関係機関と連携して適切な指導方法の研究。
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に合った指導について、教材作成を含め、各教科担当者が工夫改善しながら行うことができた。 指導に乗ってこられない生徒に対する外部の関係機関との連携を行うことはできたが、指導法の研究は行うことができなかった。 今年度は大学生ボランティアではなく、学習指導員及び「教職実習」の形で札幌国際大学の学生を受け入れた。 学生の活用については、学生の力量向上のための研修等は実施できなかったが、必要に応じて業務前後に打合せを行った。 		
バ ン コ ウ 見 ・ バ ン コ ウ 見 察	<ul style="list-style-type: none"> 指導が大変かもしれないが、外部人材の活用は双方にとってよい影響をもたらすのではないかと考える。 具体的な取組にあったように、生徒の個性に応じた学習ニーズに適応した指導を推進していただきたい。 	
重点事項	内 容	具体的な取組
特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応	学習面や行動面あるいは対人関係に困難を抱えている生徒一人一人の実態を正確に把握し教職員間の情報の共有化に努め、一人一人に対応した、きめ細やか指導と支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携するなどした支援策の検討。 職員同士の連携及び職員と保護者との連携
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携するなどして支援策を検討の上、対応することができた。 HR担任だけで対応するのではなく、教科担任などとも情報を共有するとともに、適宜保護者とも連絡を取りながら対応することができた。 		
バ ン コ ウ 見 ・ バ ン コ ウ 見 察	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組にあったように、職員同士の連携及び保護者との連携を密にしていきたい。 	

3 カリキュラムマネジメントの視点を重視

重点事項	内 容	具体的な取組
学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施	「よりよい学校教育がよりよい社会をつくる」との理念と「社会に開かれた教育課程」を実現するという新しい学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グラデュエーション・ポリシー（卒業まで）を中核に、カリキュラム・マネジメントの確立 ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の向上に向け、関係機関との連携
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度入学者からスタートしたいわゆる新カリについては、局からの指導も踏まえて、見直しを図った。 ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の向上に向け、卒業生講話や局の教育局のキャリアプランニングスーパーバイザーによる進路講話等、関係機関と連携した取組を行うことができた。 		
ご意見・ご要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた取組をされていると思う。 ・引き続き推進をお願いしたい。 	
重点事項	内 容	具体的な取組
観点別学習状況評価の充実	学習指導要領の規定に沿って作成された評価規準に基づいて学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」を充実させ、生徒の学習の改善と教師の指導の改善に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・キーループリックに基づいて、教科ループリックや単元ループリックを作成して、生徒の頑張りや成長の適切な評価。 ・観点別学習状況の評価やループリックの取組について、石狩教育局等と連携しての研修会の実施。
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、教科ループリックや単元ループリック作成に向けた確認を行い、年間指導計画に盛り込むことができた。 ・石狩教育局と連携した研修会の実施を行うことができなかった。 		
ご意見・ご要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックが、具体的な指導に活用できているかが重要かと思う。 ・引き続き推進をお願いしたい。 	

4 開かれた学校づくり

重点事項	内 容	具体的な取組
P T A や学校評議員など関係団体等との連携	学校評議員に対して教育方針や特色ある教育活動、学校評価などについての意見の把握し、教育活動の改善を進める。また、様々な P T A 活動やホームページ等を活用した広報活動を通して、生徒の状況や教育活動の現状について情報発信し理解や協力を得る。さらに輔仁会、P T A などの支援団体から生徒の教育活動に対する支援体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種学校行事を P T A 会員に案内し、学校に対する関心を喚起。
実施状況等		
<ul style="list-style-type: none"> P T A 懇談会とスクール・カウンセラーによる保健講話を同日に実施したり、P T A 協賛事業のアイヌ文化体験を開催したりするなど、保護者が関心を持てるような内容となるよう工夫した。 輔仁会定時制部会と連携し、「卒業生を祝う会」を計画したが、荒天による臨時休校により、中止となった。 		
ご意見・ご要望等	<ul style="list-style-type: none"> P T A 懇談会、スクール・カウンセラーの講話については、今後とも P T A 行事として行っていただきたい。 P T A 協賛事業のアイヌ文化体験は、保護者と一緒に勉強させていただき、大変よかった。今後ともテーマを設定して実施していただきたい。 全日制の活動とも融合してできる部分があると、より関心が高まるのではないか。 荒天のため、「西定先輩と祝う会」ができなくて残念でした。 	